

市長から市民のみなさんへ

66

山陽小野田市長 白井 博文

平成 20 年度予算編成を終えて

平成 20 年度の予算編成作業がおおた終わりました。2 月 22 日にその予算案を記者発表し、3 月の市議会で審議をお願いすることになります。

市民のみなさんにも“痛み”を共有していただき、「崖っぷち」で踏ん張って、何とか持ちこたえて耐え忍ぶことを強いられた平成 19 年度予算では、当初予算には計上できず、“見切り発車”をした事業も 2、3 ありました。あれから 1 年が経過し、予断を許さない厳しい状況が続くことには変わりはないものの、ほんのわずかではありますが、“反転”を予感できる予算を組むことが出来たのではないかと思います。詳細は 4 月 1 日号でお知らせする予定ですが、例えるなら、暗いトンネルの中を走り続けていた機関車の先頭が、いよいよ出口に近づいてきているといったところでしょうか。

中学生海外派遣事業の休止、図書購入費の大幅削減など、19 年度予算で多くの方から非難の声をいただいた点についても十分とは言えませんが、“手当”をすることができました。また、障がい者や高齢者に関する施策、少子化問題への対応などにも配慮したつもりです。一方で、基金（＝貯金）も底を尽き、歳入が厳しい中で、そういった事業に必要なお金を捻出するために、経常的に必要となる経費を削減する必要があり、職員の給料については、引き続き 5% カットをお願いするつもりです。また、昨年、公務員の給料の基準となる“人事院勧告”が景気の動向を考慮し、数年ぶりに給料アップを求めたにもかかわらず、本市の財政状況では、その体力がなく、

県下 13 市中、本市のみ見送らざるを得ない見通しで、職員には申し訳ない気持ちでいっぱいですが、市の現状を理解してもらい、協力していただきをお願いするしかありません。

平成 20 年度予算案については、次号でも引き続きお話しさせていただきます。



▲市民の善意で実現した平成 19 年度の中学生海外派遣事業。20 年度は実施の予定です。

対話の日

【いずれの会場も 19:00 から】



2月28日(木) 千崎東自治会館
3月13日(木) 成松公会堂
3月27日(木) 自由ヶ丘自治会館

※山陽地区は河合病院事業管理者が同席します。

地元産食材の活用をすすめています

本市では生産者、関係団体などのご協力をいただきながら、「地産地消」の取組みを積極的に進めています。その一環として、1 月には市内の小・中学校で刈屋・高泊漁港で水揚げされた海苔を使った給食が実施されました。（主催：県水産物消費拡大運動推進協議会、山陽小野田地区魚食普及推進協議会）高千帆小学校 3 年 1 組では、「おいしい！おいしい！」と児童が地元産海苔が黒々と巻かれた大きなおにぎりをほおばり、ふるさとの海の恵みを味わいました（左写真）。また「未利用資源の有効活用」のスローガンのもと、昨年来、積極的に取り組んでいる「ナルトビエイの食材化」事業も着実に進んでいます。今後も更に多方面から検討を続け、給食食材への導入、商業化への実現に向け取り組んでいきます。（担当課：農林水産課 ☎ 82-1153）



▲“ガブリ、ガブリ”握りこぶしより大きなおむすびが、あつという間にお腹の中に・・・